

令和四年二月二十七日

# 第三十六回

## 少年少女俳句大会 入選句集

主催 みやこ町・みやこ町教育委員会

後援 豊津俳句会

### 第三十六回 少年少女俳句大会入選句集の発刊によせて

みやこ町内外に春の訪れを告げる名物行事「三重塔まつり」は、今年で十六回目を迎えるはずでしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年も開催中止が決定されました。塔まつりに合わせて行われてきましたこの「少年少女俳句大会」につきましても、去年に引き続き表彰式は中止、作品募集と選句のみ行うということで実施の運びとなりました。

このような中、今年も京都・行橋地域の小・中学生のみなさんから、たくさんの俳句をお寄せいただきました。その数は小学生四、八四五句、中学生三、二四五句、合計八、〇九〇句にのぼり、コロナ禍にもかかわらずこれほどたくさんの応募をいただいたことは、この大会が地域の恒例行事としてすっかり根付いている証としてとても喜ばしくかつありがたいと思います。

「ことばは心の表れ」といわれ、美しいことばは心の豊かさの表れともいわれます。五・七・五の十七文字に、鋭い観察眼で心を研ぎ澄し、自分のことばで表現する俳句は、日本語の美しさそのものであり、日本が世界に誇る伝統文化です。みなさんが暮らす京都・行橋地域は俳句の源流といわれる連歌が五〇〇年もの間奉納され続けてきました。また、次ページにも紹介している俳句研究家でもある小宮豊隆氏はみやこ町の出身で、近代俳句の祖と言われる正岡子規まぎらけしと無二の親友だった夏目漱石なつめそうせきに師事し、漱石やその仲間たちから様々な刺激をうけ、俳句はもちろん能や歌舞伎など日本の伝統文化の研究に生涯を捧げました。

このようなすばらしい歴史・文化的環境の下、みなさんが今後も、俳句づくりを通して日本語の豊さに触れ、四季折々の自然や自分自身を見つめながら、さらに広く、深く、心豊かな人間として成長されることを願ってやみません。

終わりにになりましたが、本大会に参加・協力いただいた児童・生徒のみなさんと学校関係者各位、そして寄せられた俳句の選句及び審査業務にご尽力いただきました岩井小夜子先生をはじめとする豊津俳句会のみなさまに、心からお礼申し上げます。

令和四年二月二十七日

みやこ町教育委員会

## 特選句各賞の命名由来と賞の趣旨

わが町のシンボル国分寺三重塔の解体修理を機に始まったこの俳句大会は、今年で三十六回目を迎えますが、三十三回目より当町ゆかりの先人 小宮豊隆氏にちなんだ賞名による表彰を始めました。故郷を愛し文学を愛し生涯を通じて万を超える句作や松尾芭蕉研究に打ち込まれた小宮氏を顕彰するとともに、こうした先達の導きや当地の伝統の下、皆さんがこれからも俳句作りに親しみながら夢の実現に向けて羽ばたいていかれるようにとの願いを込めてこれらの賞が作られました。

・小宮豊隆賞こみやせよたか…みやこ町出身のドイツ文学者・文芸評論家の小宮豊隆氏にちなむ命名

句作の対象となる現象や事物をよく観察し、研究研鑽していることが感じられる作品への賞

・三四郎賞さんしろう…小宮豊隆氏がモデルとされる漱石の小説「三四郎」の主人公名にちなむ命名

学生らしい青春の只中であることを感じさせ、これからの成長が期待される作品への賞

・蓬里雨賞ほうりゅう…小宮豊隆氏の俳号にちなむ命名。本名の豊隆の音読に佳字をあてたとされる。

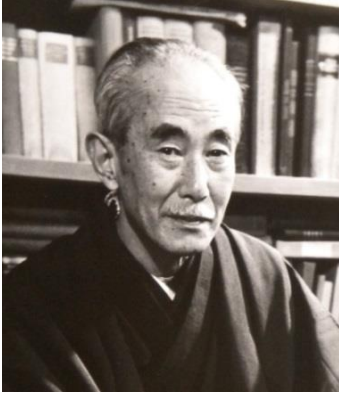
俳句の伝統をよく踏まえるとともに、蕉風(芭蕉の俳風)や季節感を十分に感じさせる作品への賞

## みやこの先人「小宮豊隆」と「俳句」についてのもものがたり

小宮さんはみやこ町（犀川久富）出身で、日本を代表する作家・夏目漱石の研究者として知られています。漱石に家族同様にかわいがられたため誰よりも漱石について詳しく、時には作品モデルにもなり、やがて『漱石全集』と呼ばれるほどの大作品・記録集を作りあげます。その全集は高く評価されて、今もその改訂版が作られて国内外の多くの人々に読まれ続けています。

なお、小宮さんの職業は大学教授で、ドイツ文学や文芸評論・能や歌舞伎をはじめとする日本の伝統文化を研究しました。特に俳句や江戸時代に俳句を完成させた松尾芭蕉についてたくさん研究書を著すとともに、自分でも「蓬里雨」の俳号でたくさん俳句を作りました。

小宮さんは俳句作りを十三歳頃に始め、八十二歳で亡くなるまで生涯俳句を作り続けました。その数は軽く二万を越えて数えきれませんが、作られた俳句のなかにはふるさと・みやこ町を詠んだものもあり、小宮さんと俳句とみやこ町は深い縁（え）に・ゆかり）で結ばれていることがわかります。



▲小宮豊隆さん(1884-1966)

このように「俳句」を深く愛し研究した「俳句博士」でもある小宮豊隆さんにはなみ、この少年少女俳句大会における特選作品にその名前(①本名・②モデルになった小説での登場人物名・③俳号。全部本人「ゆかり」の名前です)を付けて表彰することで、ふるさとを知り、愛し、誇りとする機会にしてみらえたらとの願いを込めました。

さらには、みなさんがこれからこの賞の名にふさわしい俳句作りはもちろん、勉強にスポーツに、そして自分の夢の実現に向けて羽ばたいてゆかれることを期待します。

小学校の部

岩井 小夜子 選

特選 小宮豊隆賞

テントウムシぼくの指先けって空

犀川 三年 進 志斗

特選 三四郎賞

書き初めの緊張感ににじむ墨

苅田 六年 杉下 真麻

特選 蓬里雨賞

石橋のおくにもみじと赤いとう

行橋 三年 朝比奈 大和

教育委員会賞

秋の空夕日が雲にとけていく

豊津

五年

中島

沙恵

バケツにはガラスのようなこおりはる

白川

四年

西田

琉之佑

たんぽぽのわたげを風が送り出す

諫山

六年

向井

利心

冬の朝かすみがかかる川の上

泉

四年

迫田

未愛

ロウバイがふんわりかおる冬の朝

与原

三年

まつ本  
そうや

冬が来たはくちよう元気いっぱいだ

犀川 二年 井上 蓮愛

あのノラは生きていかなこの雪に

椿市 五年 木戸 碧汰

鏡もち年神様が宿ってる

南原 五年 山崎 奏汰

さらさらと竹の音する夜の雪

久保 五年 我喜屋 海

シマエナガ雪の妖精かがやいて

伊良原 五年 藤山 空

秋の空三角形のわたり鳥

行橋南 三年 油利 光希

歩き出しふわりと香る金もくせい

延永 六年 伊藤 穂奈美

鳴り響くすんだ空気に除夜の鐘

行橋 五年 足立 南

三えのとう大きな日かげすずしいな

黒田 一年 山さき あこ

炎昼にゆっくりかんでる老いた山羊

行橋北 五年 吉原 悠華



秀逸

雪ふればきつねやたぬき雪遊び

節丸

五年

門野

帆乃香

いもうとがとりさん食べてといなほ持つ

豊津

二年

入江

ことな

いろどりのおせちみんなもはしすすむ

泉

四年

近藤

希愛

雨ふっておんぷがおどる水たまり

与原

一年

末永

一華

手をあげてはっぴようがんばるさんがつき

犀川

一年

にし村

たくな

しば犬が雪をよろこび飛びはねる

南原 六年 池畠 楓人

冬の水かくごを決めて顔あらう

久保 三年 西村 玲吾

こうようを見ながらすすむ山のおく

伊良原 三年 中嶋 杏

お焚き上げ光に照らされ神楽見る

今元 六年 梶原 光貴

二月には梅の花咲く国分寺

被郷 五年 鈴木 聖和

元日に雪や雨ふりおさがりだ

被郷 五年 中村 亮介

その角をつたにからめて鹿がなく

行橋南 五年 三宅 淳之介

佳作

空高く糸を出しきりぼくのたこ

節丸

六年 田守 壮梧

教室にかぎりなくひびくせみの声

節丸

六年 川辺 瑞季

月明り三重の塔きらびやか

節丸

五年 長尾 希美

寒の入りちやぶだい囲んで食べるなべ

豊津

六年 特手 希

あたらしいコートをはおりはつもうで

豊津

三年 松岡 あんり

めをこすりみんなでいったじよやのかね

豊津

一年 中村 あんり

ゆうやけが三じゆうのとうだきしめる

豊津

一年 しんたに みなみ

リモートでも会えるとうれしいお正月

白川

六年

椎葉

奈々

山の上体でわかる春風だ

白川

六年

森田

来虎

冬至の日給食にカボチャでる

諫山

六年

水本

千尋

お正月じいちゃん来るの楽しみだ

諫山

五年

嶋田

鮮拓

どんどこんまどにかけよる上げ花火

蓑島

四年

小坪

美詞

夏の夜月にてらされ海かがやく

蓑島

四年

橋谷

紗彩

こいのぼりはれたそらをおよいでる

蓑島

四年

若狭

彩奈

秋の葉は赤や黄色でにぎやかだ

蓑島

四年

竹野

友都

わくわくの気持ちあふれる福袋

馬場

六年 楠 成良

冬休みインターネットでオンライン

馬場

六年 森下 隆乃介

さむいあさこおりができるみずたまり

馬場

五年 宮崎 寧

いいにおいゆず湯のあとの私の手

馬場

四年 中川 真奈

きれいだなあさひにあたるつららかな

馬場

三年 中村 桜愛

ぽかぽかでおひるねしたい春の日に

馬場

二年 田中 りこ

冬休み地きゆうぎを見てたび気分

馬場

二年 すぎさか とくと

秋の道おちばいっばいおちている

馬場

二年 ささき木 あおい

どんぐりをたくさんひろうたのしいな

馬場

一年 いの上りようすけ

ハロウィンでかそうしてきてたのしいな

馬場

一年 山中 えれな

かがやきに身が引きしまる初日の出

泉

六年 右田 陽菜乃

いわし雲小さな雲が群れている

泉

五年 工藤 朱莉

夏の日の木かげの下で一休み

泉

五年 黒田 美羽

夏休み山に登っていいながめ

泉

四年 中嶋 心希

大そうじたからのここがみつかった

泉

一年 白橋 右京

さむいけどまいにちぼくははんそでだ

泉

一年 我有 慶哉

じいじから電子メールでお年玉

与原

五年

藤木

海聡

段々と空色変わる初日の出

与原

四年

小西

りな

もちをやくぼくはおもちとにらめっこ

与原

三年

木村

ひでと

冬の水つめたすぎても手をあらう

与原

二年

井上

紗矢音

トナカイのはなより赤いぼくのはな

与原

二年

疋田

登空

山頂の友に手をふり初登山

犀川

五年

安藤

寿音

ひさしぶりあじさい喜ぶ雨の歌

犀川

五年

西川

董

黄の田んぼ秋のいねかりコンバイン

犀川

五年

白石

慈稀



オナモミのまとは先生ねらいつけ

犀川

四年 森 妃菜

しかの声寒い夜にもひびいてる

犀川

四年 植村 勇心

コロナかでしあいになえしないふる

犀川

四年 河野 奏太

はつもうで白へびさまにさわったよ

犀川

二年 浦田 柚乃

はつげしきとおく見たすモノレール

犀川

一年 仲藤 杏菜

ふゆやすみやすまずけんどうがんばった

犀川

一年 さかい つむぎ

いちばんだきむさにまけずはしるんだ

犀川

一年 川より せいや

きんいろのいねにとびかうとんぼたち

犀川

一年 いちざき えんしゅう

どうぶつえんストーブほしそうトラさんも 犀川 一年 たかはしのぶやす

雪うさぎ静かに青空へはねてゆく 刈田 五年 木下 由梨

刈田駅イルミネーションクリスマス 刈田 四年 ながとみかいり

雪の日に真っ赤な塔が映える空 刈田 三年 森 琴音

川の中魚が泳ぐ水光る 刈田 三年 石川 実花

おいしそうおせちがまるで宝船 椿市 六年 木戸 美緒

木枯らしに粉雪混じり美しい 椿市 五年 古郷 蒼太

太陽の光をあびて雪とける 椿市 五年 村上 莉生

さむいあさてっぺんしろいひらおだい

椿市

三年 梅田 りりか

天草でイルカを探す夏の海

南原

六年 木村 航輔

初もうで祖母と毎年おまいりだ

南原

六年 岩佐 泰雅

お正月宇原神社で行列だ

南原

六年 三品 拓豊

帰省して会えるしあわせかみしめる

南原

五年 下崎 莉子

大地ふむ自然のドレミしもばしら

南原

四年 岡田 ほのか

かじかむ手雪がまう中バット振る

南原

三年 多田羅 洸史

カナヘビだ見つけてうれしいなつがきた

南原

二年 はま田 えい大ろう

父帰る家ぞくそろってはずもうで

南原

二年

松下

宇美

ふゆのそらほしがたくさんつながった

南原

二年

梅木

じゅな

ポタポタと垂れるしずくはつららかな

久保

六年

榎木

心愛

雪の中しらさぎ飛んでみつけたよ

久保

五年

後藤

吏駈

つばめの巣春が終ってからっぽに

久保

五年

緒方

丈太郎

まっしろのやまがみえるよきれいだな

久保

四年

福田

七葉

雪の田に白さぎ一羽かくれてる

久保

三年

後藤

寛奈

かぶとむしいえのきんぎよを見つめてる

久保

一年

さとう

ありさ

かぶとむしあるいてるよのしのしと

久保 一年 いわさきききあら

初日の出心に刻む空の色

伊良原 六年 古橋 永麗佳

みあげれば青空かさなる藤の花

伊良原 五年 内田 理葉

ほんのりとはるびよりだおだやかだ

伊良原 五年 新原 愛子

はるやすみえんそくにきたこくぶんじ

伊良原 四年 積 宣孝

はつもうでおねがいごとはないしよだよ

伊良原 一年 たかせしゅうや

ふくわらい目かくしの手あたたかい

伊良原 一年 やなせたいが

あこがれの振袖着ているお姉さん

今元 六年 吉田 和

どんど焼き無病息災みな願う

今元

六年

浅田

彩世

冬將軍仲間引き入れやってくる

今元

六年

井上

桃花

水平線ひよっこり顔出す初日の出

今元

四年

阿南

智志

ハマグリのからが開いたらこんにちは

今元

四年

安藤

優真

ゆずぶろでこころもからだもいやされる

今元

一年

いまい

ゆうき

けんび鏡雪の結しよう見つけたよ

被郷

六年

寺家

実紗希

十五夜がこがね色にかがやけり

被郷

六年

伊藤

心結

冬休み家族みんなで俳句大会

被郷

五年

中野

裕喜

笑い声聞こえてきそうツバメの巢

被郷

五年

竹山 陽翔

ぼんおどりたいこに合わせて楽しい夜

被郷

四年

久保 美陽

この冬もコロナにまけず遊びたい

被郷

三年

野中 大聖

大そうじ部屋がきれいでいい気分

被郷

三年

中野 心結

せせらぎにぼくもさかなもすきとおる

被郷

三年

鈴木 翔和

はつもうでみんなでおまいりみえのとう

被郷

三年

川内りょうへい

さんぼ道おちばガサガサたのしいな

被郷

二年

はま村 よう子

いちごがりくちにいっぱいべにほっぺ

被郷

一年

くぼ ここね

ぎくろの実はじけて赤いたべたいな

行橋南 三年 城戸 大が

秋の川大雨風でだいこんらん

行橋南 三年 城 志帆

プリントを終わってひといきうちわかな

行橋南 三年 鍋田 依那

ホウセンカ小さな花をさかせたよ

行橋南 三年 田川 凜

夏の海大波小波おいかける

行橋南 三年 吉元 杏

さんまやく。パパの料理は最高だ

行橋南 三年 さとう けい

一日中暑さわすれて水遊び

行橋南 三年 大野 陽和

馬がたけ家族みんなで山のぼり

行橋南 三年 兔田 翔



そうそうと吹く夏風に耳すまし

延永

六年

松元 夏輝

犬の顔ちらちら小雪鼻ぬらす

延永

六年

早野 幸奈

お正月テレビ電話でおめでどう

延永

四年

田島 悠吾

だざいふの神社にいつてはつもうで

延永

四年

馬場 太希

カこめおじいちゃんとおもちつき

延永

三年

堤 陽太

はるまだかちいきなメダカはちの中

延永

三年

ふじい らん

冬休み書きぞめをして干支を知る

延永

三年

田島 ゆうき

はつ日の出海もひかってきれいだな

延永

二年

よしもり ゆうさく

秋の夜僕は寝たいよすずむしさん

仲津 六年 長友 真穂

お正月ずらりとならぶ願いごと

仲津 四年 まつ田りゆうせい

スーツ着る兄ぎこちない四月の朝

仲津 三年 甲斐 恵大

英彦山の紅葉を見て深呼吸

行橋 五年 高田 智矢

おばあちゃんと畑で食べるミニトマト

行橋 五年 馬場 彩夏

キャンプ場ねころんでみる流れ星

行橋 五年 黒土 徹

一面の桜とゆっくり川下り

行橋 五年 米谷 梨々花

あざやかな落ち葉重なる登山道

行橋 五年 高橋 温仁

雲分れて光広がる紅葉山

行橋

五年

わたびきそうた

お正月気もちをあらたにピアノひく

行橋

四年

三うらりおな

雪の朝メダカのはちに氷はる

行橋

三年

白川 あゆむ

ねこじやらしねこも人もあそんでる

行橋

二年

今村 隼

はつげいこ気あいを入れてしないふる

黒田

二年

いしなだしょうた

かぜがふきあつめたおちばおどりだす

黒田

一年

鍋嶋 紡希

ひなまつりきものをきるとおひめさま

黒田

一年

かじわらひな

びゅんびゅんとなわとびのなわおどってる

黒田

一年

山田 ゆうな

風呂のふたあければゆずのかおりかな

片島 六年 河口 樹

雪遊び犬と一緒にソリに乗る

片島 三年 丸塚 昊明

ごまだきだ音とほのおのたたかいだ

片島 二年 山本 かいと

夏の山急な雨ふり虹二つ

行橋北 六年 木野 心華

露天風呂外の風うけ気持ちいい

行橋北 五年 坂本 里奈

ゆれる橋走ってわたる冬の朝

行橋北 五年 木野 斗誠

彦星と織姫結ぶ天の川

今川 五年 中山 美桜

秋の虫とても小さな音楽隊

今川 五年 城下 千枝

秋の虫仲間集めて音楽会

今川

五年

上田

武劉

白つめ草王様気分の花かんむり

今川

五年

佐村

涼々音

中学校の部

岩井 小夜子 選

特選 小宮豊隆賞

渡り蝶等とかくじ覚寺に來た大使かな

行橋 一年 加來 桜

特選 三四郎賞

振り向けば紅葉かつ散る通学路

泉 一年 木下 雛子

特選 蓬里雨賞

日がさして緋色に光る林檎かな

今元 二年 大丸 舞歌

教育委員会賞

飛んでいる宝石のような翡翠が

勝山

二年

村中

己哲

願わくばコロナ退散天狗の葉

犀川

一年

井上

太陽

朝もやに白さぎ飛び立つ冬の川

豊津

三年

榊谷

奈々

母の職場おばあちゃん笑顔スイカ割り

伊良原

二年

政枝

純平

「おめでとう」画面越しより届く春

新津

一年

市原

由莉

ゆらゆらと柳川を下るこたつ船

中京

二年

竹内

風華

化石掘る手で氷河期にふれている

行橋

一年

小松

心乃



秀逸

コロナ禍に空席寒し映画館

犀川

三年

廣嶋

修

授業中初雪が降り一時中断

豊津

二年

丸田

萌

病院で聖樹を飾る子供たち

泉

三年

小堤

翔月

持久走ラストスパート五人抜き

泉

三年

上野

真央

黄金色胸はり守る案山子かな

伊良原

三年

中嶋

柚

ひた走る雪国列車息弾ませ

新津

一年

笠井

朔太郎

まかされた駅伝4区がんばるぞ

中京

二年

中地

沙里

年の瀬の清水の「金」に笑みうかぶ

行橋

三年

下村

彩乃

祖母の家こしの曲がった梅一輪

行橋

一年

伊藤

三那子

佳作

羽休め何を思うか寒鳥かんがらす

勝山 三年 中吉 琴音

鯉幟大きく育てと空にあげる

勝山 二年 田中 詩紀

母の日の感謝の気持を花束に

勝山 二年 吉竹 真瞳

教室にハチが乱入大さわぎ

勝山 一年 小林 元詩

手袋は母の手編みでほっこりし

今元 三年 高木 かおん

楽しみを捨てて勉強聖夜かな

今元 三年 廣畑 光太郎

どこ行くの消えそうで消えないしゃぼん玉

今元 三年 亀田 ふみ

熊本城凍る大地にそびえ立つ

今元 二年 川平 智弘

シュートする日焼でわかる練習量

今元 二年 大庭 歩朗

美術室ひゅうるると隙間風

今元 二年 兒島 菜奈

天の川二人をつなぐ愛の川

犀川 三年 加藤 颯斗

悔しくて顔を上げれば渡り鳥

犀川 一年 中野 悠斗

枯尾花みんなで走る部活動

犀川 一年 白川 樹

桜咲く希望にみちて登校す

犀川 一年 嵐 快翔

啄木鳥の音ひびきけり森の中

豊津 三年 川端 冬宝

大掃除アルバム見つけ手が止まる

豊津

二年 海辺 柚菜

ヒキガエル落ち葉にかくれ冬眠だ

豊津

一年 奥田 尋

あわててる空高く飛ぶ渡り鳥

豊津

一年 奥村 実樹哉

みんなの汗かがやいていた体育祭

豊津

一年 池上 薪

暗闇を光が飾るこの聖夜

泉

三年 松本 明日翔

懐かしのグラスや祖母の紫蘇ジュース

泉

三年 末吉 ころろ

除夜の鐘家族みんなで目を閉じて

泉

三年 内田 恵

全員でつないだバトン秋惜しむ

泉

三年 田代 純也

母の日に買って帰ったカスミソウ

泉 二年 植村 真珠

大晦日心にしみる鐘の音

泉 一年 武信 燈奈

秋の空雲一つない青空だ

泉 一年 末岡 丈昊

冬空で基礎打ち素振り優勝だ

泉 一年 緒方 辰哉

青嵐麦わらぼうし連れて行く

泉 一年 西富 心愛

秋の夜星を見ながら独りごと

伊良原 三年 積 俊宏

桜道一步踏みしめさあいくぞ

伊良原 二年 中村 優太

土の中大根甘味をたくわえる

新津 一年 高松 拓真

冬晴れに祖母と語らう散歩道

新津

一年 小西 隼太

初雀さえずり高くよき目覚め

新津

一年 三浦 蹴生

足揃うスタートライン炎天下

中京

三年 石川 蒼大

森林の木の葉行き交う旋風

中京

三年 高宮 彰悟

文化祭うつくしくうたい金賞だ

中京

三年 林 丈一郎

のびのびとひまわりの花背丈こす

中京

三年 阿部 桜子

草いきれねころび感じるあたたかさ

中京

一年 前田 慶治

冬休み歴史ある古墳めぐる旅

中京

一年 原田 尚紘

霜下りて辺り一面新世界

中京 一年 杉本 來瞳

初受験祖母のおまもり握りしめ

行橋 三年 有松 結花

夏空に飛行機白く日向灘

行橋 二年 巖野 大和

みかん箱小さな鳴き声子猫かな

行橋 二年 山口 留奈

部活中皆既月食足止める

行橋 一年 堀 柚葵

ライオンと写真をとった秋の空

行橋 一年 秋吉 悠汰

オリオン座今見えるよとライン来る

行橋 一年 林 優花



○応募句数一覧（小学校の部）

受付順

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計(句)	計(人)
節丸	0	0	0	2	6	6	14	5
豊津	55	59	82	68	66	65	395	180
白川	3	2	19	26	9	22	81	35
諫山	16	9	0	18	14	20	77	32
叢島	0	3	13	24	0	0	40	16
馬場	159	35	15	11	63	72	355	150
泉	20	31	15	105	208	27	406	171
与原	26	47	68	65	93	27	326	142
犀川	73	91	70	56	64	73	427	188
荊田	3	3	16	17	8	6	53	23
椿市	1	2	13	4	25	8	53	24
南原	11	55	40	61	58	49	274	154
久保	26	49	17	48	43	23	206	79
伊良原	6	0	6	6	12	6	36	12
今元	5	3	5	20	3	84	120	69
祓郷	30	26	50	35	46	40	227	95
行橋南	1	20	121	10	95	5	252	111
延永	0	91	130	160	50	137	568	232
仲津	3	10	7	21	3	7	51	23
行橋	21	28	46	46	155	16	312	127
黒田	19	19	48	92	42	71	291	134
片島	0	6	6	6	1	4	23	11
行橋北	0	3	5	3	11	36	58	27
今川	1	2	0	22	106	69	200	118
計	479	594	792	926	1,181	873	4,845	2,158

○応募句数一覧（中学校の部）

受付順

中学校名	1年	2年	3年	計（句）	計（人）
勝山	115	92	63	270	133
今元	34	48	62	144	112
犀川	108	85	97	290	120
豊津	105	99	93	297	123
泉	270	366	393	1029	394
伊良原	6	12	11	29	10
新津	30	0	0	30	17
中京	160	217	108	485	165
行橋	153	142	376	671	444
計	981	1,061	1,203	3,245	1,518

◎第36回みやこ町少年少女俳句大会応募句総数

種別	学校数	計（句）	計（人）
小学校	24校	4,845	2,158
中学校	9校	3,245	1,518
計	33校	8,090	3,676

## 選評

岩井 小夜子

### 小学校の部

特選（小宮豊隆賞）

テントウムシぼくの指先けて空

犀川小学校 三年 進 志斗

小さな可愛いテントウムシ、指先から不意に空へ飛び立っていった。飛び立つ時に力強くけたたけという表現がとても生き生きとしています。又、空、と言いつめたところもこの句を引きしめています。感性豊かな素晴らしい俳句です。

特選（三四郎賞）

書き初めの緊張感ににじむ墨

荻田小学校 六年 杉下 真麻

一年の抱負や目標、好きなことばなど書き初めでしたためますが、真白な紙に向った時、つい緊張して一点下ろすのにもとまどうことがありませんね。止まった筆に文字がにじむこともありません。お正月の淑気や高ぶる気持などが、にじむ墨にあらわれています。清々しい句ですね。

特選（蓬里雨賞）

石橋のおくにもみじと赤いとう

行橋小学校 三年 朝比奈 大和

国分寺を訪れた方はおわかりかと思いますが、正にこの通りの景色に出会えます。写生句ですが、写生だけに終らず、石橋のおくで奥行きを感じ、秋の日の紅葉と赤い三重塔の取り合せが際立ちますね。  
空海上人に出会えそうなよい日和りです。

## 中学校の部

特選（小宮豊隆賞）

渡り蝶等覚寺とかくじに来た大使かな

行橋中学校 一年 加來 桜

渡りの蝶アサギマダラが旅の途中で寄り道をして大好きなフジバカマの花に憩うのだといっています。苅田町の等覚寺では地元の人が迎える為にフジバカマの花を増やして待っているそうです。新聞やテレビでも報道されました。大使としてとらえたところが良いですね。美しい蝶がひらひらと舞っている光景がよろこびであふれています。

特選（三四郎賞）

振り向けば紅葉かつ散る通学路

泉中学校 一年 木下 雛子

毎日通る慣れ親しんだ通学路、明るい紅葉したもみじを振り返ると、もう散り始めた葉もある。これを「紅葉かつ散る」という美しい言葉であらわした。歳時記などで勉強していく中で見つけた言葉でしょう。立派な俳句になっています。四季の移ろいを感じます。

特選（蓬里雨賞）

日がさして緋色に光る林檎かな

今元中学校 二年 大丸 舞歌

晩秋の少し冷たい空気の中、林檎狩でしょうか。日がさせば無袋の林檎が鮮やかに緋色に輝く。手に握つまいで籠かごにたまる重さ。もう一つ、もう一つと林檎を仰ぎ見ている。かなの切字が良く効いています。

## 選のあとに

岩井 小夜子

今年も又コロナの影響で塔まつり行事は中止となりましたが、三重塔再建以来続けて来た少年少女俳句大会は三十六回目を迎え例年のように募集句が沢山送られてきました。

受継がれていくことはとても尊いことだと思っています。

内容も年々俳句の中が広がっていくような気がしています。

俳句に取り組むことにより自然に向ける眼や、日々の人との交わりの中に感じる心が豊かになってきています。

俳句の基本である、五・七・五のリズムや季語も、観察や発見、心に感じたことを素直に表現することで、佳句になっていきます。

今年の作品の中にも「お降り<sup>さが</sup>」とか「紅葉かつ散る」など俳句の世界ならではの美しい言葉が使われており嬉しくなりました。勉強していくうちに、次々と素敵な言葉に出会えます。そしてその言葉が輝き始めます。俳句は写生から始まりますが、そのうちに、自分の言いたいことや感じたことが人に伝わる、深みが出てくるのです。

俳句を大会に出すためのものだけでなく、自分の心の詩だと思って楽しんでください。何年かたって自分の句をみるとその時に帰ったような、なつかしく、いとおいしい気持ちになりますよ。

四月からは皆さん一学年ずつ上りますね。どうぞ元気で、良いことがいっぱいありますようにおいのりいたします。



第 36 回少年少女俳句大会 入選句集

令和 4 年 2 月 27 日

発行 みやこ町教育委員会

福岡県京都郡みやこ町勝山上田 960 番地